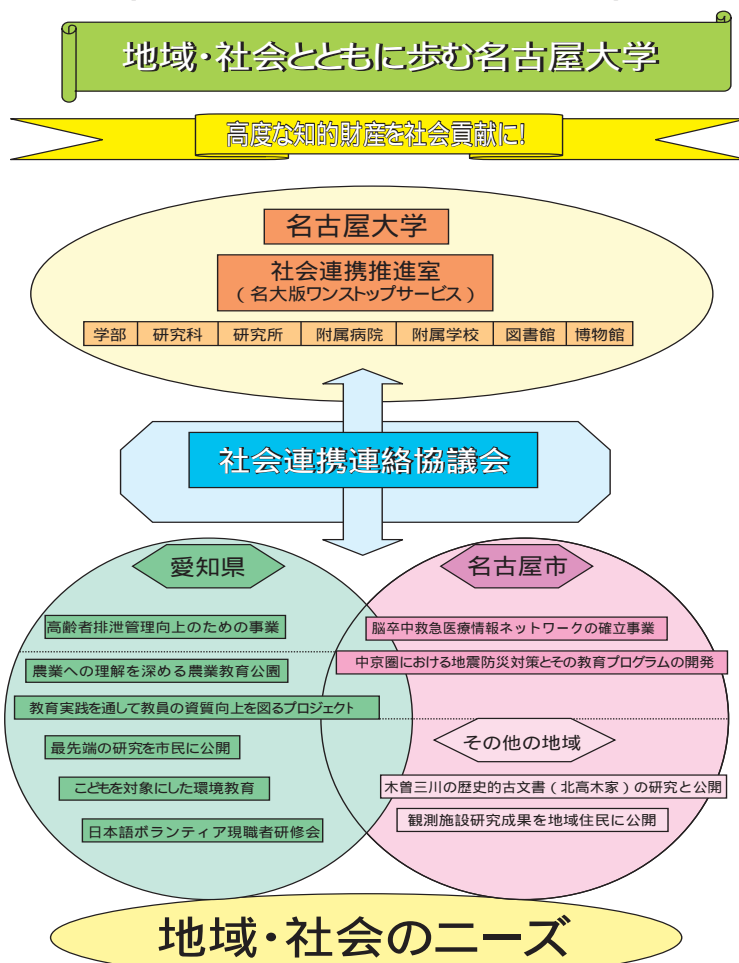




# 名大トピックス

No.113 平成14年11月8日発行 名古屋大学総務部企画広報室 編集 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Te( 052 )789-2016  
ホームページ URL http://www.nagoya-u.ac.jp

## 名古屋大学の社会連携のとりくみ (地域貢献特別支援事業)



### CONTENTS

|                              |   |                              |    |
|------------------------------|---|------------------------------|----|
| 地域貢献特別支援事業に着手.....           | 2 | 佐々木副総長がモンゴル国立大学最高栄誉賞を受賞..... | 9  |
| 大学院留学生特別コース学位授与式を挙行.....     | 3 | 伊藤 文学研究科助手が                  |    |
| 第1回男女共同参画シンポジウムを開催.....      | 4 | エル・サルバドル共和国から表彰される.....      | 10 |
| 名大病院リスクマネジメント・シンポジウムを開催..... | 5 | 農学国際教育協力研究センターが              |    |
| 医学部附属病院で法人化説明会を実施.....       | 6 | 第6回オープンセミナーを開催.....          | 10 |
| 太陽地球環境研究所が                   |   | 総長等表敬訪問一覧(平成14年7~9月).....    | 11 |
| 第2回日韓中宇宙天気国際会議を開催.....       | 6 | 第11回人事交流懇談会を開催.....          | 11 |
| 年代測定総合研究センターの主催で             |   | インターンシップを試行的に実施.....         | 12 |
| 第9回加速器質量分析国際会議が開催される.....    | 7 | 退職者へ永年勤続表彰が行われる.....         | 13 |
| 「アジア法整備支援」研究プロジェクトチームが       |   | 平成14年度職員体育大会を開催.....         | 13 |
| ウズベキスタンでシンポジウムを開催.....       | 8 | 第10回名古屋大学科学研究オープンシンポジウム..... | 14 |
| 医学系研究科がモンゴル保健大臣と会見.....      | 8 | 本学関係の新聞記事掲載一覧(14年9月分).....   | 15 |



## 地域貢献特別支援事業に着手

国立大学の優れた地域貢献の取組みに対して、重点的に支援するために文部科学省が創設した「地域貢献特別支援事業費」に国立75大学が申請し、15大学の事業が選定されました。

本学からも「高度な知的財産を社会貢献に！」をキーワードとして、下記の地域貢献プラン（10事業）を申請し、特に優れた地域貢献の取組みとして選定されました。

この地域貢献事業の申請に当たっては、総合大学として、また、東海地域の基幹大学として、名古屋市以外にある本学施設の地元との地域連携や従来から各部

局等が行っている地域との交流、連携を通じての地域貢献事業をも視野に入れてプランを構築しました。

このため、部局から提案のあった他に類のない独創的な事業の構築に対し、大学全体として支援体制を整備しつつ、今後も社会連携連絡協議会（構成：愛知県、名古屋市、名古屋大学）を通じて、地元自治体等の意見や住民のニーズを積極的に採り入れるなど、自治体と大学との将来にわたる真のパートナーシップを確立し、大学の総合案内である社会連携推進室に寄せられた意見も参考にして、開かれた大学として地域貢献推進事業の充実を図っていくこととしています。

### 事業概要

| 事業名                                 | 事業のポイント・概要  | 連携自治体等                           |
|-------------------------------------|---|----------------------------------|
| 都市近郊の農業教育公園<br>（生命農学研究科）            | 農業体験等を通して農産物の生産現場・生産者・消費者を結び、講演会・自然観察会等により最先端の科学を提供し、農業への理解を深めて我が国の食糧自給率の向上を図る。                       | 東郷町、三好町、日進市                      |
| 愛知県脳卒中救急医療情報ネットワークの確立事業<br>（医学系研究科） | 情報化技術を基盤とした脳卒中に対する新しい超急性期救急医療体制を確立するとともにその中核施設となる脳卒中医療管理センター（仮称）の創設準備作業を行う。                           | 名古屋市、愛知県医師会                      |
| 高齢者排泄管理の改善事業<br>（仮称）（医学系研究科）        | 愛知県における高齢者の排泄管理向上の目的で 講習会の実施 マニュアルの作成 指導士の養成 テキストの作成 センターの創設準備作業等の事業を行う。                              | 愛知県                              |
| 教育実践問題支援プロジェクト<br>（教育発達科学研究科）       | 本事業は、教育実践上の研究課題に付随する諸問題を整理し、理論的背景を有する解決方途を明らかにし、教育実践を支援することを通して、教員の資質向上を図る。                           | 東海市                              |
| 日本語ボランティア現職者研修会（留学生センター）            | 現職日本語ボランティアの情報・意見交換を促すために分科会方式の会議を開催するとともに、地域のボランティア日本語教室の抱える問題について情報・意見の交換を行い、今後の解決策を探る。             | 愛知県国際交流協会、名古屋国際センター              |
| 北高木家関係古文書の整理・研究（附属図書館）              | 新たに発見された木曾三川流域の自然・歴史・文化に関わる北高木家文書群の整理・研究を行い、地域の文化財保存とその活用を支援し、地域研究そのものの活性化を図る。                        | 上石津町（岐阜県）                        |
| 市民科学教育事業<br>（太陽地球環境研究所）             | 豊川市及び近在の小中高生や一般市民の科学学習のために、太陽・地球系サイエンスに関する情報提供を行う。情報は一般的なものに限らず、研究所の最新の研究成果をも含め、研究成果の市民への公開の目的をも併せ持つ。 | 豊川市                              |
| 中京圏における地震防災ホームドクター計画<br>（環境学研究科）    | 東海地震・東南海地震に対して、地域のホームドクターになるための連携協働の枠組み作り、意識啓発・教育プログラム作りを行うと共に、早期地震警報システムを構築する。                       | 愛知県、名古屋市                         |
| 長久手平成こども塾<br>（環境学研究科）               | 長久手町の計画することも環境教育に対し、専門的知見を活かした質の高いプログラムを開発し、行政・大学・住民の連携による環境教育手法の研究、学生の実践教育の場を構築する。                   | 長久手町                             |
| 附属観測施設と地域社会の交流<br>（太陽地球環境研究所）       | 全国に附置観測所を有する研究所として、全国共同利用研究所として、個性豊かな自治体のニーズに沿って、太陽地球環境学に関する情報発信、人材養成、国際交流などの総合事業を行う。                 | 陸別町、幌加内町（北海道）、上松町（長野県）、垂水町（鹿児島県） |
| 計 10 件                              |   |                                  |



## 大学院留学生特別コース学位記授与式を挙行

9月25日、豊田講堂第1会議室において「大学院法学研究科、理学研究科及び工学研究科留学生特別コース学位記授与式」が、総長、総長特別補佐、副総長、法学研究科長、理学研究科長代理（大峯評議員）、工学研究科長代理（松井評議員）及び地球水循環研究センター長の列席のもと開催されました。

修了者のうち、法学研究科の8名及び理学研究科の4名にはそれぞれ修士の学位記が、工学研究科の5名（うち1名欠席）には博士の学位記が、松尾総長から一人一人に授与されました。

次いで、松尾総長から、本学での課程を無事修了されたことへのお祝いの言葉と、本学で学んだ知識や技術をさらに研鑽し、母国のみならず、世界の発展のため力を発揮されることを希望する旨のはなむけの言葉

が贈られました。

これを受けて、今回が最後となる理学研究科の修了生の中から段 芸さん（中国）が、日本での研究生生活、指導教官や学生との交流など留学中のエピソードを交えた謝辞を修了生を代表して日本語で述べました。

閉会後には、総長をはじめとする列席者、陪席の指導教官、留学生の家族らを立てての記念撮影を行うなど、厳粛な中にも和やかな雰囲気となりました。

本学には、大学院における外国人留学生のための英語による特別コースとして、法学研究科法律・政治学専攻博士課程（前期課程）工学研究科土木工学専攻博士課程（後期課程）及び環境学研究科地球環境科学専攻（平成13年4月に理学研究科地球惑星理学専攻から移行）博士課程（後期課程）が開設されています。



段芸さんによる謝辞





## 第1回男女共同参画シンポジウムを開催

9月30日、「男女共同参画推進をめぐる日本の現状と課題、名大の現状と課題」をテーマとして、第1回男女共同参画シンポジウムが開催されました。

はじめに松尾総長から、本学の男女共同参画に関する取り組みの経緯とシンポジウムの開催の趣旨が紹介された後、第1部では文部科学省生涯学習局主任社会教育官 名取はにわ氏から、「男女共同参画社会」と題して男女共同参画社会基本法の制定の経緯と内容について、続いて、内閣府男女共同参画会議影響調査専門調査会会長である大澤眞理 東京大学教授から、「男女共同参画に関する日本の現状と課題」について基調講演がありました。第2部では、シンポジウム開催に先立って行われた男女共同参画推進に関する部局長アンケート調査とヒアリングの結果について、ワーキンググループ委員から報告があり、第3部では、増田知子総長補佐をコーディネーターに、名取氏、大澤氏もパ

ネラーとして加わり、男女共同参画に関する名古屋大学の現状と課題についてパネルディスカッションを行いました。フロアからも積極的に意見が出され、最後に、今後の方策として、育児・介護に関する整備プランづくりと女性教官比率問題について議論を深めていくことを増田総長補佐から提案があり、拍手で承認されました。

参加者は300名を超えて、会場のシンポジオンホールは満席となり、男女共同参画問題に対する意識の高さが伺われました。

最後に男女共同参画推進ワーキンググループの主査である伊藤副総長からこのシンポジウムの内容については、アンケート、ヒアリングの結果及び分析とともに、報告書として刊行予定であるとの報告があり、シンポジウムは成功裏のうちに終了しました。



パネルディスカッション



名取氏



大澤氏





## 名大病院リスクマネジメント・シンポジウムを開催

医学部附属病院では、9月30日、リスクマネジメント・シンポジウムを開催しました。

これは、医療安全管理室が10月から発足することに伴う体制変更を踏まえて開催されたもので、二村病院長及び大島副病院長のあいさつの後、「機能する医療事故防止及び対応体制構築のポイント」をテーマに、中島和江 大阪大学医学部附属病院クオリティマネジメント部副部長が特別講演を行いました。

続いて、シンポジウム「安全管理体制の編成」では、長田 薬剤部リスクマネジメントチーム（RMT）主任から、毎年施行している「リスクマネジメント意識調査」の中間報告が行われ、その後、専任ジェネラルリスクマネージャー（GRM）の伊藤恵子看護師長から「安全管理体制の再編成、安全管理室体制」について発表

があり、その中で特定機能病院として義務づけられている患者安全のための組織体制としての「医療安全管理室」は、副院長を室長として専任 GRM と医師 3 名の兼任 GRM、それに若干名の安全管理室リスクマネージャー（RM、従来の RMT にあたる）を置き、その業務は、事故防止に関する活動、事故調査に関する活動及び職員の安全教育・啓蒙活動であり、各部門の RM がそのもとで活動することが説明されました。続いて、島田リスクマネジメントチーム代表から、RMT はこのシンポジウムで発展的解消すること等が報告されました。

その後、活発な質疑応答が行われ、盛会のうちにシンポジウムは終了しました。



中島氏



## 医学部附属病院で 法人化説明会を実施

9月25日、医学部第4講義室において、「国立大学法人化と大学病院」をテーマに、法人化に関する説明会が行われました。

最初に、二村病院長から、現在附属病院が置かれている状況と、来るべく法人化への対応について説明があり、続いて武澤病院長補佐から、大学の組織改革検討委員会附属病院小委員会及び同ワーキンググループでの検討過程とともに、病院の中期目標・計画についての説明が行われました。説明会では、独立行政法人化前後の病院収支の比較や、病院に特化した人事・労務に関する諸課題についても説明があり、参加者は緊張した面もちで聞き入っていました。その後の質疑応答では、多くの質問が出されました。

参加した職員は、厳しい状況下に置かれている附属病院の経営について、またこれからの病院のあり方について、理解を深めることができました。



## 太陽地球環境研究所が 第2回日韓中宇宙天気国際会議を開催

太陽地球環境研究所は、10月2日から10月4日の3日間、第2回国際会議“The Second Japan-Korea-China Joint Workshop on Space Weather”を太陽地球環境研究所の陸別総合観測室が設置されている北海道陸別町で開催しました。これは、日本学術振興会と韓国科学財団との日韓科学協力事業共同研究「太陽風と惑星間磁場の変動に対する地球磁気圏電離圏の環境変化に関する研究」(平成13年10月より2年間)の推進を目的として地球電磁気・地球惑星圏学会の共催、陸別町の協力を受けて開催されたもので、参加者は、韓国から大学院生7名を含め17名、中国から3名、台湾、英国、カナダからそれぞれ1名、日本の大学院生9名を含めた61名が参加しました。

会議では、太陽と惑星間擾乱、太陽風磁気圏結合と磁気圏電離圏結合、電離圏熱圏結合及び宇宙天気プロジェクトの4セッションにおける招待講演が16件、ポスター発表による一般講演が39件行われたほか、地域連携の一環として、太陽地球科学や宇宙天気研究関係の一般向けポスター展示、ビデオ上映などが行われました。





## 年代測定総合研究センターの主催で 第9回加速器質量分析国際会議が開催される

年代測定総合研究センターは、9月8日から13日の間、豊田講堂及びシンポジオンにおいて、第9回加速器質量分析国際会議を開催しました。アメリカ合衆国、ドイツ、スイスを始めとする23カ国から149名、国内から88名、合計237名の研究者が参加し、一般参加者も加わって白熱した討論が展開されました。

始めに、1999年にオーストラリアで開催された第8回会議から現在までの、加速器質量分析の技術及び応用の発展のまとめについて報告があり、次に、新たに加速器質量分析装置を導入して分析を開始し、学際的な研究を推進している研究施設の紹介がありました。また、既存施設の研究概要や技術的な開発・改良が紹介され、続いて各国の研究機関で進められている応用研究が紹介され討議されました。応用研究は、海洋科学、陸水学、大気気象学、堆積学、氷床学、考古学、

文化財科学、生物医学、重核種物理学、材料科学、法医学など多岐の分野にわたります。これらの研究は、3年前と比較すると明らかに応用分野が広がっており、研究の掘り下げが深く、また議論が緻密になっています。

また、宇宙線生成核種のうち、 $^{10}\text{Be}$ 、 $^{26}\text{Al}$ 、 $^{36}\text{Cl}$ 、 $^{41}\text{Cl}$ については、高精度の測定を可能にするために世界共通の標準物質を作成して用いるプロジェクトが進められています。各国の測定機関でこの標準物質を測定し、結果の比較研究を行うことにより、全世界で分析技術のレベルアップを図ることが期待できます。このような情報開示、問題点のリストアップ、討議が総合して行われた国際会議により、加速器質量分析研究の今後益々の発展が期待されます。





## 「アジア法整備支援」研究プロジェクトチームが ウズベキスタンでシンポジウムを開催

法政国際教育協力研究センターの鮎京正訓教授を代表者とする文部科学省科学研究費補助金・特定領域研究「アジア法整備支援 - 体制移行国に対する法整備支援のパラダイム構築」研究プロジェクトチームは、9月11～13日の3日間、「法整備と伝統法」をテーマに、タシケント法科大学と共催し、ウズベキスタン共和国の首都タシケントにおいて国際シンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、「法整備支援研究プロジェクトとウズベキスタン伝統法研究の課題」、「ウズベキスタン司法制度改革の現状」、「民法分野の現状と課題」、「商法分野の現状と課題」、「ウズベキスタン制定法への伝統法の影響」、「アジア法研究におけるイスラーム法研究の課題」、「日本の近代化と民法」、「日本の近代化と法社会学」、「ソビエト法と伝統法」及び「ウズベキスタンにおけるソビエト法の影響」についての報告が行われました。3日間ともウズベキスタン法制度の現状と課題、そして伝統法の法制度に見られる影響について活発な議論が行われ、今後の研究のさらなる発展のための指針を与える良い機会となりました。



## 医学系研究科が モンゴル保健大臣と会見

9月22日、市内において、モンゴル保健大臣及び国際関係局長が、佐々木副総長及び勝又医学系研究科長らと会見を行い、モンゴルの医療・保健事情や経済状況のみならず、モンゴル国全般にわたって会談が行われました。

とりわけ医療事情について、年間35,000人もが中国で治療を受けていること、そのために保健省の年間予算に匹敵する700億円の医療費の支出を余儀なくされており、モンゴル国内の医療事情を向上させ、これらの治療を自国内で受けられるようにしないと、モンゴルの経済も医療の質も良くならない事情を訴えられ、日本の協力、そしてその中心として本学医学系研究科からの協力が強く求められました。また、本学が準備しているヤングリーダーズ・プログラムが高く評価され、人材の派遣について申し入れがありました。

会談後には、名古屋市立大学、愛知学院大学及び愛知医科大学長らの関係者と共に、レセプションが行われました。



中央：モンゴル保健大臣  
その左はモンゴル保健省国際協力局長





## 佐々木副総長が モンゴル国立大学最高栄誉賞を受賞

モンゴル国立大学60周年記念式典に招待され、10月2日から7日までモンゴル国を訪問した佐々木副総長に、ガンツォク モンゴル国立大学長から「モンゴル国立大学最高栄誉賞」が贈られました。これは、大統領や政府高官をはじめとして2,000名以上の参列者を得て、旧国会議事堂で盛大に行われた同大学60周年記念式典に先立ち、同大学法学部と本学法学部との学術交流の促進に貢献したことを称え、さらにこの交流を大学間全体に広げることを期待して贈られたもので、同大学60年の歴史の中で25人にしか授与されたことがない貴重なものであり、最近ではアナン国連事務総長が受賞し、日本人では中島 WHO 事務局長に次いで2人目の受賞となりました。

その席で同学長からは、同大学は11の学部を擁するモンゴル唯一の総合大学であるので、法学部間で進んでいる本学との学術交流を全学レベルで推進していただきたいと希望が述べられました。これを受けて佐々木副総長は、本学も日本の国立総合大学の一つであり、これを機会に是非、両大学間交流が進むように努力したいと決意を述べました。

また、滞在中に佐々木副総長は、モンゴル国立大学法学部長、JICA モンゴル事務所長とも会談し、国立大学内に設置されたモンゴル・ジャパンセンターを活用した両大学間の交流の促進などについて話し合いました。





## 伊藤 文学研究科助手が エル・サルバドル共和国から表彰される

8月22日、伊藤伸幸 文学研究科助手がエル・サルバドル共和国から表彰されました。これは、同国チャルチュアパ遺跡カサ・ブランカ地区考古学調査における功績を讃えて行われたものです。

同助手は、1995年から京都外国語大学教授らとともに、チャルチュアパ遺跡の試掘調査を開始し、1997年より科学研究費補助金（国際学術研究、平成9～11年度、『メソアメリカ先住民文化の総合的研究』代表者：大井邦明京都外国語大学教授）をうけて、調査を本格化させました。この調査では、同助手は研究分担者として参加し、カサ・ブランカ地区遺跡公園内にある6基のピラミッド神殿のうち2基で発掘調査をし、この調査に基づき、ピラミッド神殿の修復を行いました。2000年9月より同助手が代表となり、6基のピラミッド神殿がのる大基壇の端部分を調査しました。この発掘調査は2002年9月に終了し、今後は出土遺物を中心に研究が行われる予定です。



発掘風景



## 農学国際教育協力研究センターが 第6回オープンセミナーを開催

農学国際教育協力研究センターは、9月11日、今年度第6回目のオープンセミナーを開催し、ガーナ、ナイジェリアなど、アフリカからの留学生を含めた14名が参加しました。マケレレ大学（ウガンダ）獣医学部公衆衛生学科長かつ同センター客員教授であるジョージ・ナシヤマ氏から、「ウガンダにおける貧困緩和のためのマケレレ大学の役割 獣医公衆衛生学的な視点から - 」と題して、マケレレ大学の紹介、ウガンダ政府の貧困対策、マケレレ大学がJICAと共同して実施した貧困プロジェクト（研究協力）そして貧困はヒトの健康と密接な関係があるという点から、人畜共通伝染病の予防や食・水の安全確保を例に獣医公衆衛生学的なアプローチについて説明が行われました。



ナシヤマ氏



## 総長等表敬訪問一覧 (平成14年7～9月)

海外等から総長等を表敬訪問された方々は、次のとおりです。(平成14年7月～9月)

| 月日   | 学校(等)名                        | 国  | 代表者                 | 来学の目的   |
|------|-------------------------------|----|---------------------|---|
| 7/24 | 木浦大学<br>校人文科学<br>大学日本<br>語研修団 | 韓国 | 朴 賛基副教授<br>ほか学生代表3名 | 15名の学生が<br>本学夏期集<br>中日本語講<br>座(7/23～<br>8/11)を受<br>講するため<br>(文学研究<br>科) |



## 第11回人事交流懇談会を開催

本学から他機関に出向している職員との人事交流懇談会が、9月6日に開催されました。

この懇談会は、人事交流で他機関へ出向している職員と本学の幹部職員との懇談の場を設け、相互の親睦を深めるとともに、情報交換を行い、今後の交流に反映させることを目的として、毎年実施しているものです。

懇談会には小池事務局長はじめ事務局各部課長らが出席し、本学と他機関の相互の現況や諸問題について意見交換を行いました。

その後の懇親会では、事務局と部局の部課長、事務長、更に人事交流により他の機関から本学に出向している職員も参加し、総勢約160名が、久しぶりの再開に話も弾み、和やかな雰囲気の中、互いの懇親を深めました。

なお、本学は東海地区の基幹的総合大学として従来から人事の相互交流を推進しているところであり、現在本学から他機関への出向者数は19機関107名、また、他機関からの受入者数は9機関44名となっています。



挨拶する小池事務局長



## インターンシップを試行的に実施

本学では、学生の高い職業意識の育成と学習意欲の喚起等を目的に、8月26日から9月6日の10日間、本学教育学部3年生（2名）をインターンシップの研修生として受け入れました。

これは、本学教育学部に在学する学生を対象に、本学としては初めて試行的に実施したもので、総務部企画広報室と学務部留学生課が研修生の受け入れを担当することとなりました。両課とも所掌する業務内容の概要等についてオリエンテーションを実施した後に、具体的かつ実践的な実務指導が行われました。

企画広報室では、高等学校の見学対応、本誌の取材、学内の施設見学を体験する一方、デスクワークとして本誌、学報の原稿作成及び校正業務、電子掲示板への記事掲載業務を体験しました。また、研修期間中に名古屋大学ホームページの充実・改善に向けた調査検討等の課題を与え、その改善点について発表させるなど

本学としてもユーザーの貴重な意見を得ることができました。

留学生課では、入国管理局への査証申請業務、医療費・宿舍費補助申請業務、国際交流会館退去手続、国際留学生会館入居選考通知作成、留学生センター関係業務等、留学生に直接関わる業務を体験するとともに、行政文書ファイルの作成及び短期プログラム・オリエンテーション資料作成等、幅広く業務を体験しました。また、研修生からの発表を通じて、語学を使用した対応業務の必要性など研修プログラムの見直しが課題として挙げられました。

本学では、今回のインターンシップ研修生受け入れの貴重な経験を踏まえ、今後、本格的なインターンシップの実施に向けて、研修プログラムの開発等、鋭意検討することとしています。



企画広報室における研修





## 退職者へ永年勤続表彰が行われる

平成14年9月30日付けで退職される井土清司 医学部・医学系研究科総務課課長補佐への名古屋大学永年勤続者表彰式が同日、総長室において行われ、松尾総長から被表彰者に表彰状と記念品（花瓶）が手渡されました。

なお、井土課長補佐は、昭和41年4月に本学に奉職以来、36年6月にわたり大学行政の遂行に尽力されました。



総長、事務局長とともに記念写真に収まる被表彰者



## 平成14年度職員体育大会を開催

健全な体育等の活動を通じて職員の元気を回復し、職員相互の緊密度を高めることにより、勤務能率の発揮及び増進に資することを目的として毎年開催されている体育大会が、今年度も開催されました。

今年度は、15チーム参加によるソフトボール大会を8月26日から29日にかけての4日間、10チーム参加による硬式テニス大会を9月5日から10日の3日間に実施し、各チームが優勝を目指し熱戦を繰り広げました。

10月2日には、事務局において表彰式が行われ、小池事務局長から、各種目の優勝及び準優勝チームにカップ、賞状及び賞品が、第三位及び第四位チームには賞状及び賞品が手渡され、各チームに対しお祝いの言葉がかけられました。

大会の成績結果

| 種目     | 順位  | チーム名              |
|--------|-----|-------------------|
| ソフトボール | 優勝  | 理学部               |
|        | 準優勝 | トンカチ（施設部）         |
|        | 第三位 | ドキドキコンタース（経理部）    |
|        | 第四位 | 経文（文系）ピクトリー（経済学部） |
| 硬式テニス  | 優勝  | 本部A               |
|        | 準優勝 | 理学部               |
|        | 第三位 | ウォンパツ（多元数理科学研究科）  |
|        | 第四位 | サーブ&ボレー（医学部）      |



表彰状を授与する小池事務局長

INFORMATION

## 第10回名古屋大学科学研究オープンシンポジウム

開催日時 平成14年12月2日(月) 10:00~17:00

開催場所 名古屋大学シンポジオンホール

どなたでも参加できます(入場無料)

主催 名古屋大学科学研究オープンシンポジウム組織委員会

テーマ 新たな研究教育拠点と大学の将来

発表者 松尾 稔 総長

佐藤 彰一 文学研究科 教授

町田 泰則 理学研究科 教授

上村 大輔 理学研究科 教授

浅井 滋生 工学研究科 教授

菅井 秀郎 工学研究科 教授

末永 康仁 工学研究科 教授

水野 猛 生命農学研究科 教授

日 程 10:00~10:10 開会・組織委員長挨拶

10:10~10:45 町田 泰則 システム生命科学：分子シグナル系の統合

10:45~11:20 水野 猛 新世紀の食を担う植物バイオサイエンス

11:20~11:55 佐藤 彰一 統合テキスト科学の構築

( 昼 食 )

13:00~13:35 上村 大輔 物質科学の拠点形成：分子機能の解明と創造

13:35~14:10 浅井 滋生 自然に学ぶ材料プロセッシングの創成

14:10~14:45 菅井 秀郎 先端プラズマ科学が拓くナノ情報デバイス

( 休 憩 )

14:55~15:30 末永 康仁 社会情報基盤のための音声映像の知的統合

15:30~15:55 松尾 稔 大学の将来構想と研究教育拠点の形成

16:00~16:50 パネルディスカッション

16:50~17:00 まとめ・閉会

問い合わせ先 / 名古屋大学研究協力課 TEL052-789-5536

INFORMATION

本学関係の新聞記事掲載一覧（14年9月分）

|    | 記事   | 月日                | 新聞等名             |
|----|--|-------------------|------------------|
| 1  | 民主代表選 魅力あるドラマどう演出できるか 法学部・後房雄教授  | 9.2(月)            | 読売(朝刊)           |
| 2  | 女性科学者の登用 学会が応援 来月に「連絡会」野依教授も連名   | 9.2(月)            | 朝日(夕刊)           |
| 3  | 学生街ダンス：大学の編入学って本当に進みたい道に 3年・川合道子   | 9.3(火)            | 中日(朝刊)           |
| 4  | 医学部保健学科の公開講座・開催案内  | 9.3(火)            | 中日(朝刊)           |
| 5  | college mode：ゆったりとベトナム風アイスコーヒーに舌鼓 3年・柚木まり  | 9.3(火)            | 中日(朝刊)           |
| 6  | 訃報：工学部・山下雄也名誉教授 8月30日心筋梗塞のため逝去   | 9.4(水)<br>9.5(木)  | 中日(朝刊)<br>読売(朝刊) |
| 7  | ほぼ予約時刻通り受診 初診予約システム導入の名大病院 医学系研究科・山内一信教授   | 9.4(水)            | 読売(朝刊)           |
| 8  | 心筋梗塞の発症 危険度を数値化 岐阜県国際バイオ研究所と医学系研究科の共同グループが遺伝子診断システムを確立                                     | 9.4(水)            | 中日(朝刊)<br>他2社    |
| 9  | 野依良治教授のオンリーワンに生きて -22- 「解答」より「問題発掘」  | 9.5(木)            | 読売(朝刊)           |
| 10 | 工学研究科の水谷孝教授と理学研究科の篠原久典教授のグループ ビーボットCNTを使った電界効果トランジスタ(FET)を作製し、同CNTのバンドキャップ特性を制御できることを突き止めた | 9.6(金)            | 日刊工業             |
| 11 | 川西宏幸筑波大教授を団長に文学研究科・周藤芳幸教授ら考古学の専門家のグループ 古代エジプト遺跡 木棺から質素なミイラ発掘                               | 9.7(土)            | 中日(夕刊)           |
| 12 | 日本語 ウイグル語 自動翻訳ソフト開発 工学研究科・稲垣康善教授と国際開発研究科のムフタル・マフスット助手らが12年かけ開発した                           | 9.8(日)<br>9.11(水) | 毎日(朝刊)<br>読売(朝刊) |
| 13 | 研究室発：情報文化学部・戸田山和久助教授 技術者の倫理意識を高めたい   | 9.10(火)           | 中日(朝刊)           |
| 14 | 学生街ダンス：名古屋大4年 杉山直之 英語の語学研修 外国人の友人増えた   | 9.10(火)           | 中日(朝刊)           |

|    | 記事  | 月日      | 新聞等名          |
|----|---|---------|---------------|
| 15 | 名古屋 - 日進、断層2本 中村・熱田 地震揺れ拡大も 中部大の志知龍一名誉教授、博物館長の足立守教授らのチームの調査でわかった  | 9.12(木) | 読売(朝刊)        |
| 16 | 野依良治教授のオンリーワンに生きて -23- 環境守る技術開発を                                  | 9.12(木) | 読売(朝刊)        |
| 17 | 名古屋市民大学「バイオ技術の今」遺伝子解析やクローン、再生医療などの話題を名古屋大学の教員が解説する                | 9.12(木) | 朝日(朝刊)        |
| 18 | 特別教養セミナー パーミヤンの仏教美術 講師は宮地昭名誉教授など 栄中日文化センター                        | 9.12(木) | 中日(朝刊)        |
| 19 | 医学の現場から：メカブの発がん抑制 がん細胞に自死引き起こす 医学部・舟橋啓臣講師                         | 9.13(金) | 中日(朝刊)        |
| 20 | Erと酸素共添加 電流注入で発光に成功 工学研究科・竹田美和教授ら                                 | 9.13(金) | 日刊工業          |
| 21 | 乗鞍スカイライン 二重負担に懸念も 税+マイカー規制「利用者意見反映を」 法学部・後房雄教授                    | 9.13(金) | 毎日(朝刊)        |
| 22 | ヘルペスウイルス使いがんと治療 医学部の中尾昭公教授や西山幸弘教授ら治験申請 日本初                        | 9.13(金) | 中日(夕刊)<br>他2社 |
| 23 | 豊橋技科大からの統合への話し合い 名大受諾へ 学生数増「大規模でメリット」                             | 9.14(土) | 中日(朝刊)        |
| 24 | ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム 「21世紀の創造」 - 11月に5都市で開催                           | 9.14(土) | 読売(朝刊)        |
| 25 | 医学部・中尾昭公教授らの研究グループは、乳がん細胞にウイルスを直接注射する治療法の臨床試験を学部内の倫理委員会に申請した      | 9.14(土) | 読売(朝刊)        |
| 26 | ナノチューブ 産学で有望用途探る 理学研究科・篠原久典教授ら 日米の12機関の研究者が特性解析へ研究会を設立            | 9.16(月) | 日経(朝刊)        |
| 27 | 幅広いテーマ「現在と未来」問う 都市創造フォーラム「語らい座」 第5回トーク 奥野信宏総長特別補佐 「地方分権推進へ課税自主権を」 | 9.17(火) | 毎日(朝刊)        |

|    | 記 事   | 月 日      | 新聞等名       |
|----|---|----------|------------|
| 28 | 豊橋技科大との統合前提に 名大が協議開始決める   | 9 .18(水) | 読売(朝刊) 他3社 |
| 29 | 老年学：科学の及ばぬ加齢過程 大学院老年科・井口昭久教授  | 9 .18(水) | 朝日(朝刊)     |
| 30 | 名大手術ミスで会合   | 9 .18(水) | 中日(朝刊)     |
| 31 | 野依良治教授のオンリーワンに生きて - 24 - 家族で囲む食卓 大切に                                    | 9 .19(木) | 読売(朝刊)     |
| 32 | 10月16日に第55回新聞大会名古屋開催記念・新聞大学 工学研究科 1号館にて開催                               | 9 23(月)  | 読売(朝刊)     |
| 33 | 文科省 公開シンポに9件を選出「化学 - 自然と社会へのかかわり」をテーマに理学研究科が、来年1月25、26日に東京・有楽町朝日ホールにて開催 | 9 24(火)  | 日刊工業       |
| 34 | 学生街ダンス：若者の手で情報発信 興味に沿い地域奔走 名古屋大院修士1年 上田真由美                              | 9 24(火)  | 中日(朝刊)     |
| 35 | 30日、本学シンポジオンホールにて男女共同参画シンポ開催  | 9 24(火)  | 中日(朝刊)     |

|    | 記 事  | 月 日     | 新聞等名   |
|----|--|---------|--------|
| 36 | 医療相談：医学部・中島務教授が読者の相談に答える   | 9 25(水) | 読売(朝刊) |
| 37 | 野依教授のオンリーワンに生きて - 25 - 21世紀のジャーナリズム                                  | 9 26(木) | 読売(朝刊) |
| 38 | コーナーキック：森田美弥子 言葉の重み 教育発達科学研究科・森田美弥子教授                                | 9 27(金) | 中日(夕刊) |
| 39 | 交遊抄：教育への情熱辻村哲夫 (名古屋大学卒)  | 9 28(土) | 日経(朝刊) |
| 40 | 中日春秋：名大医学部・大幸キャンパスの2本の梅の木健在 戦争中の日中関係のエピソードを伝える                       | 9 28(土) | 中日(朝刊) |
| 41 | 踊るなら綺麗に 松尾稔総長 文科省 COE プログラムの選考作業・最終段階                                | 9 30(月) | 日刊工業   |
| 42 | 本山まちづくりフォーラム 住民主導で 4月に発足アドバイザー的立場でフォーラムに参加 環境学研究科・小松尚教授 今後の活動に期待を寄せる | 9 30(月) | 中日(朝刊) |



お詫びと訂正

名大トピックス No.112 (平成14年10月15日発行) 裏表紙「ちょっと名大史」の記事に誤りがありました。

本文2行目の「仮医学校」と「仮病院」が、また12行目の「仮医学校跡地」と「仮病院跡地」が入れかわっていました。慎んでお詫びします。

本誌に関するご意見・ご要望・記事の掲載などは企画広報室にお寄せください。

総務部 企画広報室 企画広報掛

電話：052(789)2016

FAX：052(789)2019

E-mail：kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

前号(連載第5回)で紹介した「義病院」の閉院3ヵ月後の1873年5月、愛知県は西本願寺掛所(別院)に仮病院(1875年1月以降、愛知県病院)を復興しました。義病院が財政難から閉院に至った教訓を活かし、今回の病院復興に際しては財源面・人事面ともに全面的な民間依存策が採られました。その結果、本願寺派(西本願寺)・大谷派(東本願寺)・高田派のいわゆる真宗三派では信徒からの喜捨を募って、5万円もの巨額を拠出しています。

仮病院には、ドイツ系アメリカ人医師ヨングハンスが雇われていました。彼は、本学の歴史上最初の外国人教師です。当時、愛知県下では医師の約8割が漢方医であった状況において、彼は県下の医師に対して、自らの診療公開や死体解剖の実演等を行って西洋医学の啓蒙・普及に貢献しました。また彼は、1874年に日本初といわれる皮膚移植手術も行っています。

病院復興の翌1874年11月には病院内に医学講習場も設けられました。そこではヨングハンスが英語による医学教育を行っています。彼の生理学の講義録(口語訳)『原生要論』(1876年刊)は、本学附属図書館医学部分館に残されています。

このように仮病院(愛知県病院)・医学講習場は、本学医学部前身の一つとして、当時の西洋医学受容の尖端的拠点ともいえる場所でした。現在の西本願寺別院境内(名古屋市中区門前町1)にあたります。



西本願寺別院



西本願寺掛所(『愛知県写真帳』1910年より)

名古屋大学の歴史に関する記念碑・記念物に関する情報をお持ちでしたら、大学史資料室(052-789-2046)へご連絡下さい。